

「いつやるか」を伝えたい

～どういう時にそうするのか～



学習のポイント

- whenを使って「いつやるか」が言える
- whenを使って「いつなのか」が言える

英語監修・執筆 **鳥飼慎一郎**

■コミュニケーション

私たちは、いつも時間を意識して生活しています。「会議を開きます」と言う場合に、すぐに頭に浮かぶのは「いつ」会議を開くのか、ということです。英語でも同様に、

We will have a meeting.

とだけ言っただけでは不完全で、「いつ」を付け加える必要があります。

We will have a meeting at 11:30.

このように言えば、「いつ」なのかがはっきりし、11時30分にきちんと会議を開くことができます。「いつ」会議を開くのかを、**at 11:30**と表現しましたが、この部分を例えば、「川淵氏が来たら、会議を開きます」と言うとしたらどう表現すればよいでしょうか。「川淵氏 comes」というのを英語で言うと、以下のようになります。

Mr. Kawabuchi comes.

これに **when** を付けて、上の文につなげると、

When Mr. Kawabuchi comes, we will have a meeting.

(川淵氏が来たら、会議を開きます)

いつ会議を始めるのかを **when** を使って表現することができます。この **when** で始まる部分は、文の後に付けても同じような意味になります。

We will have a meeting when Mr. Kawabuchi comes.

(川淵氏が来たら、会議を開きます)

このように **when** を使うと、「いつ」ということがより詳しく表現でき便利です。いくつか例を紹介いたしましょう。どれも、「いつ」そうするのかを **when** を使って表しています。

When the bell rings, we will finish the exams. (ベルが鳴ったら、試験を終了します)

When it starts raining, please take in the washing.

(雨が降り始めたら、洗濯物を入れてください)

I usually watch movies when I have nothing to do.

(何もすることがないときは、たいてい映画を見ます)

Give me a call when you get there. (着いたら電話をください)

この **when** は以前のことを述べるときにも使えます。例えば、「私が家に帰ると、父は台所で料理をしていました」と、父が台所で料理をしていたのが、以前のいつだったかを詳しく言うことができます。

When I went back home, my father was cooking in the kitchen.

(私が家に帰ると、父は台所で料理をしていました)

以下に同じような例を挙げておきましょう。

When Ryo got a good idea, he e-mailed it to Naomi right away.

(亮は、名案が浮かぶと、さっそく直美にメールをしました)

Hina became very excited when I told her the plan to visit Hakone.

(箱根に行くプランを伝えたら、日梨は大変喜びました)

When I was asked my opinion, I said I did not like the new policy.

(私の意見を求められたとき、私は新しいやり方は嫌いだと言いました)

■単語や表現

I saw her dancing.

この文の意味は「私は彼女がダンスをしているところを見た」という意味です。この文で、ダンスをしているのは彼女であり、彼女がダンスをしているのを見たのは私、という2人の人が別々に違うことをやっている状況を表すという2重の構造になっています。

I saw ... + She was dancing. ➔ I saw her dancing.

この2つの事柄を1つの文にまとめたのが、I saw her dancing.です。

英語では、「誰かが何かをやっていることを、見たり聞いたりする」ということを表現するときに、このように **ing** 形を使って表します。

We saw the train coming. (私たちは列車が来るのを見た)

Philip saw a strange man climbing the wall.

(フィリップは変な男が壁をよじ登っているのを見た)

I heard passengers chatting and laughing in the compartment.

(私は乗客が客席でおしゃべりをしたり笑ったりしているのを聞いた)

Naomi heard Ryo and Hina practicing new songs for the concert.

(直美は亮と日梨がコンサートのために新しい歌を練習しているのを聞いた)

■英語のきまり

When は「いつ」なのかを聞くときにも使われます。その一方で、「～したときに」と“時”を表す表現としても使われます。

When did he arrive at Tokyo?

When he arrived at Tokyo, he went to a tourist information center.

最初の文は、「彼がいつ東京に到着しましたか？」と質問している文です。2番目の文は「彼が東京に到着したときに（到着すると）」と、いつ旅行案内所に行ったのかを表しています。では、どのようにしてこの2つを見分ければいいのでしょうか。手がかりは質問の文を作る時に使う便利屋さんの **did** です。この **did** を使うと、動きを表す語を以前のことを表す形 **arrived** から元の形 **arrive** に戻して使います。「～したときに」と“時”を表す **when** では、以前のことを言うのであれば、以前のことを言う形 **arrived** をそのまま使います。

もちろん、今のことを言う文であれば、便利屋さんの **do** が手がかりになります。

When do you need help? (いつ手伝いが必要ですか?)

When you need help, please let me know. (手伝いが必要なときは、教えてください)

最初の **do** を使っている文が質問の文で、**do** のない2番目の文が **when** を使って「いつ」なのかを表している用法です。

◀ これからのことでもwillはいらぬ

番組で、水兵が直美に、

We will drop you off when we stop at the next port.

(次の港に着いたら、お前を降ろすからな)

と、言っています。直美のことを船から降ろすのはこれからのことですので、**will** が使われています。では、同じくこれからのことである「次の港に着いたら」という部分でも **will** を使わなくてよいのでしょうか。

We will drop you off when we will stop at the next port.

×

(次の港に着いたら、降ろすからな)

確かに、両方ともこれからのことですので、両方に **will** が使われてもいいように思いますが、英語では、たとえこれからのことであっても **when** を使っていつなのかを表している部分では、**will** などのこれからのことを表す語を使う必要はありません。今のことを言う表現を使います。



英語の学び方

1年間英語を勉強してきたこの『ベーシック英語』も今回が最後です。どう英語を勉強したらよいか、どう勉強したら上手に英語が使えるようになるのか、簡単にまとめておきましょう。

①英語は外国語、できなくて当たり前

私たちにとって、英語は外国語です。全く意味をなさない音のつながり、例えば **b-u-k** を聞いて、「本」という意味に結びつける、**book** というアルファベットの連続を見て「本」とわかるように何度も意識的に練習をしてきました。そうして覚えた単語をつなげて、**I read books.** と文を作り、それを日本語とは違う英語の発音で言ってみたり、アルファベットという別世界の文字でつづってみたりしては、英語を1つ1つ覚えてきました。考えてみればこれは想像を絶する膨大な知的な作業であり、一朝一夕にできるようなことではありません。

時間をかけ、「辛抱強く、単語の発音を覚え、スペリングを覚え、その意味を覚え、文法の規則を当てはめ、文を作る」。話すときには、「一瞬にして文を作っては英語の発音で声に出して言う」話しかけられれば、「その発音を頼りにどのような単語を言っているのか？ その意味は？ そこに関係した文法は？」などいろいろ考えて文の意味を理解する」。実に大変な作業が外国語の勉強では必要になってきます。最初から完璧になんてできるわけがありません。

②間違ってもいいからどんどん使ってみる

英語であれ、ドイツ語であれ、そして日本語であれ、同じ人間が使っている言語です。何度も使っては間違いを繰り返してゆくうちにだんだんと慣れてきます。耳が英語の発音に慣れ、目がアルファベットやスペリングに慣れ、ああいうときにはこの単語を使えばいい、この表現を使えば通じる、そうやって自分ができる範囲を少しずつ広げてゆきましょう。

大事なことは、どういうときにどういう言い方をするのかを注意深く観察することです。外国語の勉強で大切なことは、「まねる」ということと「繰り返す」ということです。この言い方はおもしろい、使えそうだと、思ったらそれを「まねて」は「繰り返す」使ってみましょう。こういうときに、こういう言い方を、こういう意味で使うのだ、ということが、繰り返し使っていてゆく中で、頭の中に蓄積してゆきます。

③辞書を使って確かめてみる

辞書というと引くのがめんどくさい、引き方がわからない、引いても意味や使い方がたくさんあってわからない、などと言われますが、そのような場合は一番薄い辞書をまず使ってみましょう。中学生用の最も簡単で薄い辞書がおすすめです。

載っている単語の数も、その意味や使い方も基本的なものだけに絞ってあるはずですが。ある単語を引いたら、そこに出ているその単語の意味、使い方、例文、その日本語訳を全部目を通しておきましょう。時間がかかりますが、その単語の意味や使い方の全体像が理解できます。急がば回れです。



④『ベーシック英語』のセリフをまねて言う

日本は、日本語だけで何不自由なく生活できる国です。そういう国では、英語を使う機会は限られています。そういうときには、『ベーシック英語』の番組で使われているセリフを見ては、大きな声でまねをして言ってみましょう。特に日梨と亮のセリフは基本的なものが多く、その回のポイントが多く含まれています。その日梨も亮も最初は英語ができなかったのです。それが番組の最後のほうになるとかなり上手になってきました。皆さんも、ぜひ2人のまねをして英語を繰り返し言うてみてください。いつか口から英語が出てくるようになるでしょう。

どうか英語の勉強を続けていってください。やればやっただけのことはあり、その分世界が広がります！

